



米子市福市考古資料館通信

第18号

2025年9月



企画展示「砂に埋もれた古代の暮らし」を開催します

米子市福市考古資料館では、令和7年10月22日(水)から秋期企画展「砂に埋もれた古代の暮らし」を開催します。

米子市の中心市街地から少し北東へ進んだ、博労町から錦町周辺の地域は、かつては桑畑が一面に広がる農村地帯でした。近年では都市化が進行して畑も見られなくなりましたが、その地下には人知れず古代の遺跡が埋もれていました。

1995(平成7)年に「ふれあいの里」の建設工事に伴い発掘調査された錦町第1遺跡では、縄文時代から中世まで、長期間にわたって人々が生活していた痕跡が見つかりました。ふれあいの里周辺は、現在では平坦な地形に見えますが、古代には海から風によって運ばれてきた飛砂によって砂丘が形成され、かなり高低差のある地形が広がっていました。古代の人々は、その地形を活かして畠を耕したり、古墳を造ったりして生活していました。

錦町の東にある博労町遺跡は、米子工業高等学校と啓成小学校の建て替えに伴う発掘調査で見つかりました。博労町遺跡では、弥生時代後期から古代まで続く大規模な集落が営まれていました。そして、中世には集落の跡地が広大な畠へと作り替えられますが、その畠も飛砂によって埋もれてしまい、やがて耕作が放棄されてしまいました。

発掘調査で見つかった、何層にもわたる砂の層の重なりは、砂丘に暮らす人々の過酷な生活環境を物語っているようです。

今回の企画展では、砂丘に立地する遺跡から出土した遺物をはじめ、発掘調査中の写真を展示します。

また、11月9日(土)の午後2時から、米子市文化ホール研修室において、博労町遺跡の発掘調査を担当された、米子市文化振興課の濱野浩美さんによる講演会「砂に埋もれた古代の暮らし-市街地の地下には大都市がねむる-」も予定しています。こちらもぜひご参加下さい。



砂丘断面の剥ぎ取り風景(博労町遺跡)

奈喜良(なぎら)遺跡から出土した 車輪石の展示台を作成しました

奈喜良遺跡は、米子市の南部にある橋本(宝石)城の北山麓に所在する、縄文時代晩期から古墳時代中期の集落遺跡です。ここからは、昭和50年に行われた成実小学校の建設に伴う発掘調査で、竪穴建物内から車輪石(しゃりんせき)の破片が出土しました。

車輪石とは、貝で作られた腕輪を模して碧玉で製作した装身具です。米子市内では唯一の資料ですが、大半が欠損しているため、元の形をイメージしにくいのが難点でした。このため、欠損している部分を復元した、新しい展示台を自作しました。

復元に使用した原料は、石粉粘土を使用し、アクリル絵の具で着色しました。原料は、すべて100円ショップで入手したものです。このような立体模型の製作と活用は、大正11年に刊行された浜田耕作の『通論考古学』でも、「此等模造模型が博物館に於いて肝要なることは今更言ふを須たず。」と述べられています。これからも、より分かり易い展示を心がけたいと思います。



稜線をしっかり出すように成形します。



色を塗って完成！

発行日 令和7年9月30日
発行者 米子市福市考古資料館
指定管理者 一般財団法人 米子市文化財団
住所 〒683-0011 米子市福市461-20番地
電話・FAX 0859-26-3784
休館日 火曜日・祝祭日の翌日・年末年始(12月29日～1月3日)